

啐啄同機



大阪市立榎本小学校

1月20日

NO、18

一流への入り口

以前勤めていた学校の卒業生で、恐るべき速さで泳ぐ児童がいました。彼をよく知る人に聞いたところ「エリート小学生研修合宿」メンバーに選ばれていたそうです。将来の日本代表となるための合宿です。その合宿は、日本代表として速く泳ぐことはもちろん、一流の人間になるための合宿と位置付けられていました。

彼に、合宿参加者への注意が書かれた紙を見せていただきました。いくつかのルールが書かれていました。そこには「これは最低限のルールです」と記されていました。

1、大きな声であいさつや返事をする。

挨拶の「挨」は「押す」という意味を「拶」は「迫る」という意味を持っています。元々は禅の言葉で「自分の心を開き、相手の心を推し量る」という考えを表した言葉です。挨拶は、人間関係の第一歩と言えます。

以前にもどこかで書いたかもしれませんが、返事の「ハイ」を漢字で書くと「拝」になります。誰を認め、拝むのか。それは、自分のことを呼んだ相手です。しっかりとした返事は、相手を認めることです。あいまいな返事は、相手に対して失礼な行為でなのです。

注意点の1番目に挙げられているのも納得です。

2、集合時間など決められた時間は守る。

一人が遅れると全員に迷惑がかかります。合宿中は、基本的に「5分間行動」と書かれていました。社会は、不平等なことが多いものです。全ての人に平等なのが時間です。どんなにお金持ちでも、有名人でも、1日は24時間です。

105歳で亡くなった聖路加国際病院の日野原重明先生は、「人が使える残り時間、それが命です。」と言います。人の時間を奪うのは、人の命を奪うのと同じです。

社会では時間を守らない人間は絶対に信頼されません。

3、指示されたことは素早く行い、だらだらした行動はとらない。

「自分のことよりも、指示されたことを優先せよ」と書かれていました。

社会生活を営む上では、自分のことよりも全体を優先しなければならないことはたくさんあります。学校生活も例外ではありません。

指示する方にも注意点があります。指示の意味を語る必要があります。意味が分かればいずれは指示をしなくても自分の判断で動けるようになります。

4、他人に対して気配りや心配りをする。

乱暴な言葉遣いや他人が不快に感じる行動はとらない、と明示されていました。日本には「言霊」という思想があります。今でも、結婚式などの忌み言葉として生きています。

日本では、その人が使う言葉がその人自身を表すと考えられます。

注意書きを読んで、当たり前のことを当たり前にすることが一流の入り口なのだと感じました。